

降下軽石を用いた陶磁器用釉薬

デザイン・工芸部 寺尾 剛

火山堆積層の軟質さつま土(赤ボラ)を釉薬原料として用いた試験を行った結果、次のようなことがわかりました。基礎釉として用いた場合、鉄分がやや多いため白色透明性の釉薬原料として用いることは難しいが、原料のシルト分によるアルミナ分が少し多い影響か、釉面に照りの少ない半マット質のしっとりした黄茶の釉調を示します。また、酸化金属を添加した着色釉の試験でも渋目の落ちついた釉調を示し、原料も軟質のため粉碎も容易であり、身近に入手することができる安価な釉薬原料として利用出来ることがわかりました。

環境デザインにおける提案型研究

—CGによる木製歩道橋のシミュレーション—

デザイン・工芸部 藤田純一

製品開発時における「デザイン」の重要性はすでに言うまでもないことですが、最近では身の回りの製品以外に、環境デザインが中でも注目を集めています。

デザイン・工芸部では、県内企業の製品開発時の参考となるべく研究を行っていますが、近年「人に優しい素材」として見直されてきている木材を用いた歩道橋を例に取り、提案型の研究を行いました。

歩道橋のような、規模の大きい製品のデザイン開発には、CG(コンピュータ・グラフィックス)を用いることで、画面上で自由にバリエーションが作れ、また客観的に検討することができ非常に有効です。

さらにCGが持つ大きな特徴としてアニメーションにより色々なシミュレーションが可能です。今回は道路を走る自動車から歩道橋を見た場合と、人が歩道橋を渡る場合の2種類のアニメーションを作成し検討を行いました。